

候補者選ぶ過程体験

市選管
出前講座
玉野高で模擬投票

玉野高で6日、市選管の出前講座があり、2年生約140人が模擬投票などを通じて政治参加の意義や重要性を学んだ。

講師の市選管職員が、前回参院選(7月)の10、20代の投票率は30%台で、市全体(53・20%)に比べて低かったことを紹介。年代によって関心の高い政策は異なり、選挙結果で税金の使途が左右されるとし、「インターネットなどで候補者の情報を集め、比較し、



自分の考え方に近い人う」と呼びかけた。を選んで投票しましよ。模擬投票は架空の市

長選を想定して実施。後、本物の記載台、投票箱を使用し、一票を投じた。片岡幸太さん(17)は「選挙権を持つという実感がいまいなかった。18歳の政策を比較し、生徒同士で意見を交わした。同高での出前講座は、具体的な候補者を選ぶ過程を体験する。票箱を使用し、一票を投じた。片岡幸太さん(17)は「選挙権を持つという実感がいまいなかった。18歳の政策を比較し、生徒同士で意見を交わした。同高での出前講座は、具体的な候補者を選ぶ過程を体験する。」と話した。(多田和代)

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。